

共同利用・共同研究に関わる各種お知らせ

装置開発室よりお知らせ

前室長の宇理須恒雄教授が退職され名古屋大学へ移られた後、2011年度から、私、加藤政博が室長を引き継ぐことになりました。これまで装置開発室の運営に深く関わる機会はありませんでしたので、今後いろいろと勉強しながら務めてまいりたいと思います。不慣れでご迷惑をおかけするようなこともあるかと思えます。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、装置開発室では、毎年一回、所内外の委員の先生方にお集まりいただき、運営委員会を開催しております。今年は、9月28日に、代理も含め14名の委員の先生方、また、小杉研究総主幹、装置開発室技術職員、事務センター担当職員など8名の参加を得て、開催いたしました。定例の状況報告、予算の審議などに引き続き、施設長が交代したこともあり、装置開発室の役割の再確認、運営体制の見直しについてご議論をお願いしましたが、様々な視点からの有益なご意見を頂戴することができました。

装置開発室の業務の基盤である依頼業務、すなわち、分子研内外からの装置の製作や開発の依頼に応える業務に加えて、装置開発室職員が技術力向上を目指して自主的に研究計画を立案し遂行するような研究開発を「将来技術開発プロジェクト」と位置付けて、今後、展開していきたい、ということを施設側から提案いたしました。これに対して、趣旨についてはご理解・ご賛同いただけました。その進め方について、「装置開発室で保有する技術をさらに伸ばしていく方向で考えていくべき」、「研究者との連携を重視し、研究ニーズに合ったものとするべき」などのご意見をいただきました。これらの意見を参考にしながら、技術職員の自主的な技術開発・技術力向上への意欲を後押しするための仕組みとして発展させていきたいと考えています。

分子研外部からの製作・開発依頼を受け入れる「施設利用」を平成17年度より分子研の共同利用の一環として開始しております。その目的は、装置開発室の技術力向上と共同利用機関として外部からの依頼に対応することでした。これまで年間10件弱程度を受け入れており、施設の活動の一部として定着して来てきました。今後も発展的に継続してゆきたいと考えておりますが、受け入れに際しての審査の在り方など、少し整理が必要な部分もありました。そこで、施設利用の在り方、受入れ方法などについてご議論をお願いいたしました。その結果、受入れの判断基準として、分子科学の発展への寄与、装置開発室の技術力向上への寄与、装置開発室の保有する技術の特徴を活かせること、の3点を考慮し、受入れに関する審査を行うこととなりました。

運営委員会は、所内外の装置開発室に対するご意見を頂戴する貴重な機会となっております。今後とも忌憚のないご意見を願います。

(装置開発室長 加藤 政博)

機器センターよりお知らせ

分子研の明大寺地区では、昨年度に実験棟の改修という大事業が行われました。その後、その他の建物も含めて部屋割りの見直しが行われ、より効率的な利用が行われるようになっています。機器センターでも、部屋割りと装置の配置を抜本的に見直しました。具体的には、1) 寒剤供給と物性計測関連設備 (ESR, SQUID) は極低温棟、2) ナノ秒レーザー関連はレーザーセンター棟1階、3) ピコ秒レーザーシステムは実験棟地下、4) X線回折や分光計測関連装置は南実験棟、という集約化を図りました。特に、南実験棟S101号室は、機器センター技術職員手作りのパーティションで区切られて、高感度蛍光分光光度計、可視紫外分光光度計、顕微ラマン分光装置、蛍光X線分析装置を整然と配置することができましたので、施設利用で訪れる所外の研究者の方々にも快適にご利用頂けるものと思います。今後、さらに南実験棟には所外利用者のための待合スペースも整備し、測定の合間の解析(ならびにしばしの休憩)等にご活用頂けるようにしたいと計画しています。機器センター所有の各設備に関しては、ホームページにて説明を行っております (<http://ic.ims.ac.jp/kiki.html>)。また、昨年末に発行した「機器センターだより」第4号にも、利用方法や設備紹介をまとめて記載してありますので、ご参考の上、有効にご利用頂ければと思います。

(機器センター長 大島 康裕)



高感度蛍光分光光度計



各装置はパーティションで区切られています。

共同利用研究の実施状況について

種 別	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (12/1現在)
課題研究	1	1	2	2	1	0	1
協力研究	96	84	91	90	119	122	107
分子研研究会	11	13	9	4	5	6	3
若手研究会等	—	—	—	1	1	1	1
施設利用I	43	41	59	72	60	66	90
電子計算機利用(施設利用II)	132	142	144	147	171	170	179
UVSOR 研究会	1	3	2	2	2	1	9
UVSOR 施設利用	126	113	146	156	147	140	135
計	420	403	452	474	506	506	525

施設利用Iについては、平成19年度以降は、機器センターと装置開発室の合計件数である。

分子研研究会の実施状況について

開 催 日 時	研 究 会 名	提 案 代 表 者	参 加 人 数
平成23年6月28日～29日	第5回分子科学会シンポジウム	中井 浩巳(早稲田大学)	73名
平成23年11月1日	実験と理論による高次分子システムの機能発現の分子論的理解	関谷 博(九州大学)	47名

若手研究会等の実施状況について

開 催 日 時	研 究 会 名	提 案 代 表 者	参 加 人 数
平成23年7月9日	分子科学若手の会夏の学校 講義内容検討会	赤瀬 大(広島大学)	13名